

立命館霞塾プログラムに関してよくある質問

学生の皆さんから多くいただく質問について、以下に Q&A 形式で記載しますので、ご覧ください。

Q. プログラム期間中のスケジュールを知りたいです。

A. 立命館霞塾プログラム募集要項（7月中旬に公開予定）に掲載されていますので、ご覧ください。

Q. 地方公務員志望ですが、国家公務員志望ではないと霞塾に参加できないのでしょうか。

A. 「公務員」「国家公務員」に少しでも関心があれば、ぜひご参加ください。現在地方公務員を志望している方も、霞塾プログラムに参加し国家公務員の仕事について知ることにより地方公務員への思いが強まったり、逆に公務員ではなく民間企業への志望度が高まることもあるかもしれませんが、プログラムに参加された皆さんに、大学が公務員試験受験を義務付けたり、求めたりすることはありません。

Q. 「霞塾プログラム」に申し込むと参加できるプログラムを教えてください。

A. 「霞塾プログラム」は大きく「Lecture+Work」、「霞塾 OBOG 懇談会」、「グループ学習」の3つのプログラムに分かれています。

* 霞塾プログラムの参加申込をされた方は原則、全員「Lecture+Work」「霞塾 OBOG 懇談会」に参加可能です。

* 「グループ学習」は、霞塾プログラムに参加申込をされた方の中から別途募集を行います。グループ学習への参加を希望される場合、まずは「霞塾プログラム」に期限までに参加を申し込んだ上で、別途「グループ学習」にも申し込む必要があります。

※1 「霞塾プログラム」の申込〆切 : 10/1 (水) 17:00

「グループ学習」の申込〆切 : 10/9 (木) 13:00

※2 「グループ学習」募集要項はこちら (9月中旬公開予定)

Q. 対面での参加が難しいのですが、大丈夫でしょうか。

A. クラブ・サークルや諸活動で忙しい皆さんも参加できるよう、可能な回は Lecture+Work を対面とオンラインのハイブリッドで実施します。その場合はオンライン参加も可能です。オンライン参加の方も、対面参加の方と同時にオンラインでグループワークを行います。ただ、対面参加が可能な方はぜひ会場にて参加して、直接講師の方のお話を対面で聞き、ワークに参加されることをお勧めします。

(霞塾プログラム参加者の中から別途募集を行う「グループ学習」は対面実施指定回を除いてグループごとに話し合い、対面またはオンラインを選択してグループワークを実施しま

す。)

Q. 霞塾プログラムに参加している1回生と2回生の割合はどのくらいですか？

A. 年度により異なりますが、おおよそ4対6から6対4の間の比率です。

Q. やむを得ずプログラムに欠席した場合、それ以降の参加は難しいでしょうか。

A. 霞塾プログラムのLecture+Workは毎回テーマが変わりますので、欠席することで以降のプログラムにおいて講師の話についていけなくなったり、ワーク参加が難しくなることはありません。ぜひ参加できる日程で、積極的にご参加ください。

一方、グループ学習は継続的なグループでの活動となりますので、欠席された場合は自身でグループメンバーに欠席した回の議論の進捗状況や次回までの各自での取り組みなどについて確認することが必要です。

Q. 今1回生です。今年霞塾プログラムに参加した場合、2回生では参加できませんか？

A. 1回生の時に参加した方も、2回生で改めて参加いただくことも可能です。ただし、グループ学習は、応募者多数の場合、初めての参加の方を優先する場合があります。

Q. 理系学部で学んでいます。霞塾プログラムに参加するメリットは何でしょうか。

A. 文系学部で学ぶ方にも言えることですが、理系学部で学ぶ過年度の参加者の方からは「文系学部の人と交流することで、課題に対する考え方の違いを実際に体験し、知ることができた」という声が多くありました。また、様々な官庁において第一線で国家行政や国全体に関わる政策立案に携わる方々から、各官庁における課題や業務内容等について聞くことができる貴重な機会である点も、参加をお勧めするポイントの一つです。理系学部で学び、霞塾プログラムに参加し、国家公務員総合職になられた卒業生の方もおられます。

以上

(2025.7.3)